



平成29年3月10日

各 位

上場会社名 浜井産業株式会社
 代表者 代表取締役社長 武藤 公明
 (コード番号 6131)
 問合せ先責任者 常務取締役管理担当 山畑 喜義
 (TEL 03-3491-0131)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成28年11月11日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成29年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,000	60	10	5	0.15
今回修正予想(B)	3,630	△250	△300	△600	△17.43
増減額(B-A)	△370	△310	△310	△605	
増減率(%)	△9.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	4,498	△406	△473	△524	△15.24

平成29年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,990	5	3	0.09
今回修正予想(B)	3,620	△302	△602	△17.49
増減額(B-A)	△370	△307	△605	
増減率(%)	△9.3	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	4,467	△480	△529	△15.37

修正の理由

当社を取り巻く経営環境は、期初から第3四半期末までの円高や設備投資抑制に伴う需要減少、ならびに中国をはじめとする新興国からの受注減少等がありましたが、ホブ盤・フライス盤、部品・歯車の売上については、ほぼ計画通り推移しました。しかし、利益率の高い大型ラップ盤等の売上が伸び悩んだことが、利益水準を含めた業績予想を修正させていただく主因です。

また、第4四半期会計期間においては、半導体関連のラップ盤を中心に、電子電機関連や自動車関連の部品加工向の受注が好転してきたものの、当初の予測よりも回復が遅れたため、これらは平成30年3月期の売上に寄与することとなり、平成29年3月期の売上予想の達成が困難となりました。

なお、最終損益が経常損益と比較し、大幅に減少している要因は、主に足利工場を中心とした固定資産の減損損失246百万円を特別損失に計上したことによるものです。

(注)本資料に記載されている業績予想見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上